

- 薪ストーブ1台で暖まる高気密・高断熱の家
- 可変性のある間取り
- 自然素材をふんだんに取り入れた造り

建築データ

構造規模 ■ 木造・2階建て、延床面積/134.25㎡(約40坪)
 主な外部仕上げ ■ 屋根/亜鉛鉄板横葺、外壁/防火サイディング、建具/玄関ドア:木製断熱ドア、窓:樹脂サッシ
 主な内部仕上げ ■ 床/フロア合板、壁・天井/クロス仕上
 断熱仕様 ■ (外断熱)基礎・壁/サーマックス30mm、屋根/グラスウール(ハイアール)16kg(24kg相当)100mm
 暖房方式 ■ エアコン



- 1.常に家全体の空気を循環させる工法で建てられているため結露のしにくい家に。温度も家全体が一定に保たれ、部屋から部屋への移動が寒いなどの不快感とは無縁
- 2.南側にある玄関横のアトリウム空間。植木を室内で育てるには最適な場所。冬は日光の暖かい恵みを留める役割も果たす
- 3.和室からLDKの眺め。自分たちだけのスペースを確保しつつ、家族の声も届く安心の距離感
- 4.20畳のLDK。開放的だが、テンポよく配置された柱がアクセントになっている
- 5.2階からLDKを見下ろして。暖炉の暖気や光の通り道としての役割も
- 6.2階は構造的には屋根裏に当たる部分。外断熱工法なので無駄なく居住スペースとして活用できた
- 7.2階ホールは当初は部屋にする予定だったが、現状は区切らず開放的に使用することに

みやぎ版ゼロエネ住宅推進ネットワーク

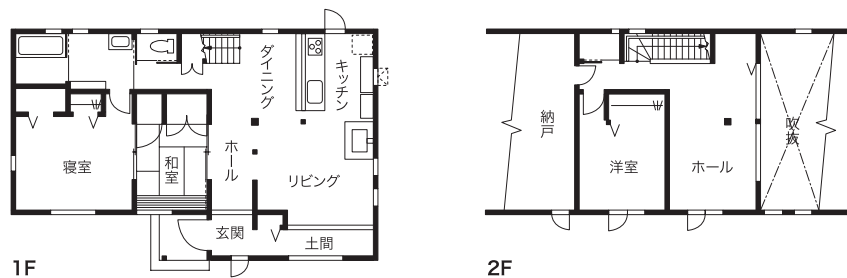
1階のLDKにしながら、各部屋にいる家族の気配を感じることができるのがSさん宅です。定年退職した両親の寝室とその横の和室の襖を開ければLDKまでつながり、娘さんのいる2階のホールからはLDKを見渡すことができます。将来もし親が寝込むようなことになっても寂しくならないように。そんな配慮もなされています。

逆に、約10畳分取られている2階のホールは壁とドアを設けて独立した部屋とすることも可能。将来娘さんが結婚し2世帯で同居することになった場合には、プライバシーを確保することができます。その際、1階の和室を襖で仕切れば、リビングとは別に専用の茶の間も。人生の各ステージに合わせて姿を変えながら長く暮らせる家になっています。

このように開放的で間取りが自由な空間が実現したのは、気密性に優れた外断熱工法で建てられているため。家中どこにいてもほぼ同じ温度なので、寒い冬も熱効率のために各部屋を仕切る必要はありません。真冬も薪ストーブ1台で家全体が暖かです。実際の面積以上に広がりを感じ、床から屋根裏まで家全体をダイナミックに使うことができます。

内部に足を踏み入れると、マツの太い梁とスギ丸太の小屋梁が目を引きまます。ふんだんに使われた自然素材が、家族の気配をどこにいても感じられる家に温もりをプラス。開放的でかつ落ち着いた家が完成しました。

平面図



miyagiban zero-ene jutaku suishin network
 みやぎ版ゼロエネ住宅推進ネットワーク

問い合わせ先事務局
 (株)橘綜合住宅
<http://www.ts-house.co.jp/>
 仙台市青葉区粟生5-22-2
 TEL.022-395-5318